

平成29年度 四日市市立

6月 1日発行 No.1

教育センターニュース

四日市市教育委員会 教育支援課
〒510-0085 四日市市諏訪町 2-2 (四日市市総合会館6階)
TEL 354-8283 (代) FAX 359-0280

ホームページ <http://www.yokkaichi.ed.jp/e-center/>



教育支援課マスコットキャラクター
しえん君

初夏の風に汗ばむ今日この頃です。新年度がスタートして約2か月が経ち、学校・学級経営は、順調に軌道に乗ってきた頃ではないでしょうか。

さて、教育支援課では、本市第3次学校教育ビジョンの実現に向け、子どもたちのよりよい発達と成長、及び学校の教育力の向上を図るため、学校・園、保護者のニーズに応じた支援を行っています。

今回は、教育支援課の今年度の重点的な取り組みについてご紹介します。



教育支援課 研修・研究グループ

今日的な教育課題に対応した研修を実施し、教職員の専門性と実践的指導力を高めるとともに、幅広い視野を備えた教職員の育成および資質・能力の向上を目指します。

1

「問題解決能力向上のためのガイドブック2」を活用した授業づくりを進めます

本市では、「問題解決能力」を子どもたちに育むため、「問題解決能力向上のための5つのプロセス（四日市モデル）」を活用した授業づくりを進めています。これは次期学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取り組みにあたります。

4月7日の研修担当者研修会では、各校において「ガイドブック2」を活用した伝達研修会の実施をお願いしたところですが、未実施の学校は、実施をお願いします。研修・研究グループに指導主事派遣の要請を頂ければ、研修会に伺います。

先般配付した「ガイドブック2」を活用し、全小・中学校で授業実践・授業改善を行い、「社会人になっても通用する問題解決能力」の養成につなげてください。

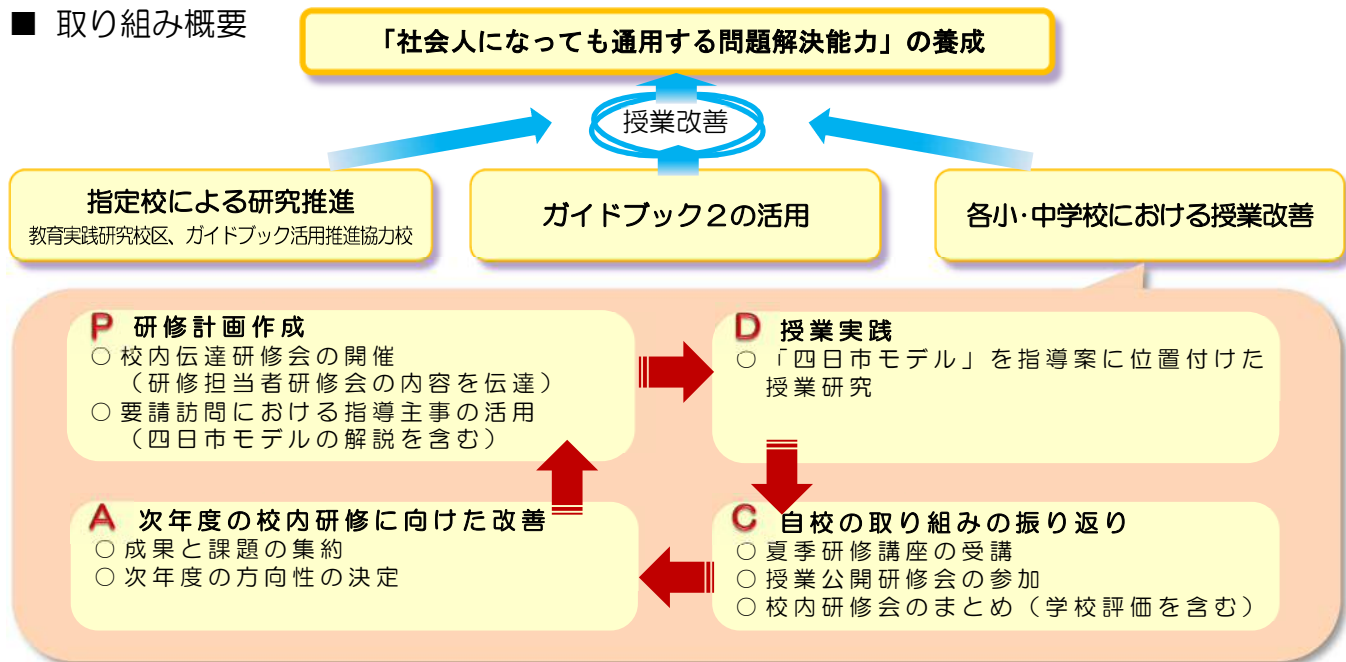
【各校】

- ☆ 「四日市モデル（5つのプロセス）」を指導案に位置付け、授業研究を行う。
- ☆ 「問題解決能力向上のための授業づくり」に関連する研修会を、未受講の教員を中心に受講する。

【教育支援課】

- ☆ 「問題解決能力向上のための授業づくりガイドブック活用推進協力校」の取り組みを支援し、その授業実践を夏季研修会、協力校の公開授業研究会等で、市内教職員に広く知らせる。

■ 取り組み概要



2

ライフステージや職務に応じた教職員の資質・能力の向上を図ります

教育への情熱、豊かな人間性や確かな教師力を持った教職員を育成するために、教職経験年数（ライフステージ）や職務に応じた資質・能力の向上を目的とした教職員研修の充実を図ります。

また、各校における教職員育成が推進されるよう、指導主事等の派遣など校内研修会等充実への支援を行います。

【各校】

☆ 「四日市市学校教職員—教師力向上のために—」等を活用し、自分のライフステージに応じた教師力を自覚し、PDCAサイクルにて計画的に研修し、実践に生かす。

【教育支援課】

☆ 本市の教育課題や受講者のニーズに応じた、より実践的な研修講座を実施し、確かな教師力の向上を図る。また、若手教員研修（訪問支援を含む）、ミドルリーダー教員研修、ベテラン教員研修、管理職研修を、より一層充実させる。

3

四日市ならではの地域資源を生かした授業づくりを進めます

産業と環境、文化が調和するまち四日市ならではの地域資源を教育に生かすことで、本市に生まれ育った子どもたちが、ふるさと四日市に誇りと愛着を持ち、将来、社会の一翼を担う人材「心豊かな“よっかいち人”」を育成するための教育を進めています。

【各校】

☆ 本市の地域資源（企業・JAXA 連携授業、久留倍官衙遺跡等）を生かした学習活動を計画し、ふるさと四日市に誇りと愛着を持つ、心豊かな“よっかいち人”の育成を図る。

【教育支援課】

☆ 企業連携授業、JAXA連携授業等が、教科内容との関連や、キャリア教育の視点を大切にしながら実施できるよう、連絡・調整等の支援を行う。また、四日市市の特長を生かすための研修講座等を実施する。

4

ICTを活用した授業づくりを進めます

子どもたちがICTを活用して、自らの考えを表現し、互いに学び合う協働的な学習を推進することで、問題を解決する力を育成するとともに、子どもたちの実践的な情報活用能力と情報モラルの育成を図っていきます。

【各校】

☆ ICTを活用したわかりやすい授業づくりを推進するため、校内研修会やOJT等を充実させる。

【教育支援課】

☆ 授業でのICT活用が図られるよう、各校のニーズに応じた、より実践的なICT活用研修や、ICTコーディネーター研修、出前研修を実施する。また、より効果的なICTの活用方法・活用事例を紹介する。

教育支援課 特別支援教育・相談グループ



支援の「なめらかな縦の接続」を目指し、関係機関と連携しながら特別支援教育を推進するとともに、特別支援学級及び通常学級における支援力向上を図っていきます。

また、困り感のある児童生徒やその保護者、関係教職員と教育相談を行い、不適応状態の改善や不登校児童生徒の学校復帰を目指します。

1

特別支援教育に関する専門性の向上に努めます

◆特別支援教育指導者養成講座

1年目は夏季・冬季休業日等に6講座を受講し、2年目は地域特別支援教育 Co. (地域 Co.) に同行する等の実地研修を年6回程度実施します。

平成29年度からは、3か年で各校1人以上受講できるよう、募集人数を20人に増員しました。

◆特別支援教育校内コーディネーター（校内 Co.）実地研修

校内 Co. (小学校) は、幼稚園・保育園・こども園の就学相談に同行して、調査員から子どもの見立てや小学校でできる支援について学びます。

校内 Co. (中学校) は、小学校6年生の観察を行い、地域 Co.協力員から子どもの見立てや中学校でできる支援について学びます。

◆特別支援教育基礎講座（出前研修）

教職経験年数の少ない教員向けに、特別支援教育の基礎的な知識を学べる出前研修を行います。

2

早期からの支援体制の充実を図ります

◆小学校生活スタート支援事業

通常の学級への就学が見込まれる、特別な教育的支援が必要な子どもの支援について、小学校が主体となり、幼稚園・保育園・こども園と連携して、早期から計画的・段階的に取り組むことを目的としています。

平成29年度モデル校9校には、週2時間の非常勤講師を配置して校内 Co.の活動時間を保障するとともに、地域特別支援教育 Co.協力員を派遣して見立てや支援について助言します。

◆小学校校内通級〈サポートルーム〉支援事業

平成29年度からの取り組みで、通常の学級に在籍する発達障害等がある児童生徒に対して、週1時間程度の校内通級指導を行います。

モデル校小学校5校において実施し、4年間で20校に拡大します。

3

特別な教育的支援が必要な子どもへの支援の充実を進めます

◆適応指導教室【わくわく教室 ふれあい教室】

わくわく教室（小学生）

教育支援課のプレイセラピーを終了した後の児童が、次に集団活動を通して友達との関わり方などを身につけ、自信の回復や学校復帰をめざす教室です。

ふれあい教室（中学生）

保護者や本人への教育相談やカウンセリング、小集団による学習活動や体験活動等、学校復帰に向けての支援や、社会的自立を促す支援を行う教室です。

◆YESnet（四日市早期支援ネットワーク）

子どもたちの心の病気の早期発見・早期支援のために、教育委員会・こども未来部・保健所・医療機関がネットワークを結んで取り組んでいる事業です。

子どもの心の不調について、具体的な支援の方法や医療等の必要性についてアドバイスしたり、YESnet スタッフがメンタルヘルスについての出前授業や出前研修を行ったりします。

